

1. 評価結果概要表

平成 21年 3月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	2070501065		
法人名	特定非営利活動法人 心		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	長野県飯田市松尾上溝6301番地1 (電話) 0265-23-1174		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年4月22日

【情報提供票より】(18年 2月 18日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤3人	非常勤8人 常勤換算7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1, 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (2月 18日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	3名	要介護4	3名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 87 歳	最低 83 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長野整形外科クリニック アルプス歯科 医療法人 川井歯科 医療法人栗山会 飯田病院 みかさクリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームこころは、お隣さんと呼び合える街の中に位置し、2階建て住宅を改築し、玄関を入ると季節の草花が飾られ、そこには熱帯魚の水槽があり、利用者は豊かな自然環境に囲まれゆったりとした暮らしを満喫している。フロアからはお隣の庭の木々が眺められる。ホームは明るく開放的で廊下を挟んで畳敷きの居室があり、2階の部屋はコタツの和室があり、職員または気の合う仲間と自由な時を過ごす事も出来る。その窓を開ければ、季節の風を感じられ安心して暮せるグループホームとなっている。ホームの職員は、共に生活していく家族であるということを一番に考え、こころと心の通じ合える関係作りに熱意を持って取り組んでおり、家族も安心して預けられるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘の地域との支えあい、地域との交流を更に広めるよう努めている。また、運営推進会議は、定期的開催されており、更に充実した内容にするよう検討している。理念を实践する体制は、誰にでも判り易いよう皆で作成し、実践できるよう努めている。このように改善点について、改善案を作成し全職員で改善に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員で話し合い、管理者がまとめて作成し報告している。数回の取組の中で、自己評価から職員が気付かなかった課題を見出し、サービスの質に繋ごうという姿勢が伺われる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的な運営推進会議を開催し、会議ではホームの概要報告やホームでの事故報告の検討等行われているが、外部評価の結果を委員にモニター役になってもらい、この評価を具体的に結びつける事が出来ていない。外部の参加者が少ないので、町内会関係者等のメンバー増員が課題である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月"こころ通信"を発行し、家族に報告しているが、利用者個々の報告が少ないので、今後は利用者の暮らしぶり等をお知らせできるよう検討している。また、運営に関する家族等の意見反映については、家族会等設置されていないため、来訪時に意見要望を聴くよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のお祭り、近所の畑のれんげ祭りに参加するなど、積極的に交流の機会を作っている。またご近所からの収穫された野菜等の頂き物、ホームで作ったお裾分けなど地域の付き合いが進められている。今後は、保育園や学校との交流も検討している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来の理念を、利用者やその家族に判り易い理念にしようと言う事で、管理者、職員と共に見直しを行い、「共に…共に…」と言う地域の人達が判り易い言葉を使い、住み慣れた地域で安心した暮らしの継続性と、地域で支えあうホームの姿勢が明記されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内の見やすい場所に掲示され、ミーティング時や関りの振り返り時には、理念を掘り下げ、理念にもとづくケアに努めており、全職員の共有認識になっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所で開催されるれんげ祭りや地域の祭りには、利用者と一緒に参加している。		地域の一員として、地域での生活が広がる日常性と、利用者の持っているエンパワーメントを引き出すためにも、地域住民との交流を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価と外部評価の意義を理解し、評価結果は、改善事項について、ミーティング時に職員全員で点検し、順次改善するよう努めている。		

グループホームこころ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的な運営推進会議を開催している。会議では、ホームでの現状や、検討課題について委員から意見を頂き、ホーム運営やサービスに反映するよう努めている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、市の担当者との連携を持ち、情報収集や関連の法律等を相談している。今後も市の担当部署と連携強化を図る姿勢が伺われる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に"こころ通信"を発行し、家族に報告しているが、利用者毎の暮らしぶりや健康状態の報告が少ない。また金銭報告は、毎月報告している。</p>		<p>家族等が知りたい事を考慮しながら、利用者や家族の状況に応じて、個別の報告を行うことが重要となる。当事業所においては、今後個々に応じた報告をするよう検討されているが、あらゆる機会を通じて家族等に情報提供することを期待する。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会は、発足していないが、アンケート等により家族から事業所へ意見や要望をいただけるよう検討している。</p>		<p>安心の運営提供のため、家族等が職員に意見や要望苦情等を運営に活かす取組が重要となる。家族等が知りたい情報と職員が知らせたい情報を提供して、積極的に家族の声を聴く場面作りを期待する。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は、利用者には馴染みの職員との関わりが一番と考え、離職や異動も最小限に抑えるよう努めている。新入職員がある場合は、利用者にきちんと紹介し、馴染んでもらっている。</p>		

グループホームこころ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県外視察を実施するなど、事業所外の研修会等には積極的に参加し、毎月のミーティング時には研修報告を実施し、全職員が研修内容を共有できる機会を作っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣とのグループホーム連絡会に参加し、テーマを決め学習会を行い、サービスの質に努めている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望がある場合は、家族とも十分に話し合いを行い、事前に家族や利用予定者にホーム見学をしてもらって、他の利用者と一緒に食事やお茶をしたり、生活の様子を見てもらい、安心して利用できるように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「浅間山は、長野県にあるのだよ。」、どうしてよいのか困った時、利用者から助けの手をもらったり、言葉がけを利用者から教えたもらったり、職員は利用者から日々生活の知恵を学ぶ。理念に掲げてあるように、共に支えながら暮す関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>全職員は、利用者の意向や思いを日常行動から判断し、幅広く関心を持つように努めている。把握が困難な場合は、利用者に寄り添い時間をゆっくり持ち、思いを聴くよう努力している。また、ボランティアの受入れにより利用者の思いや意向を把握する事もある。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族からの意見や要望と利用者の生活暦を確認しながら、職員全員で意見交換し、介護計画を立てている。</p>		<p>個別の介護計画は、一人ひとりの意向に反映しながら作成する事が求められる。身体状況によっては、医療機関とも相談しながら、本人に適した介護計画作成を期待する。また、介護計画は職員が何時でも見る事が出来るように工夫する事が望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のミーティング時に職員からの意見を基に、見直し再認識している。</p>		<p>利用者一人ひとりの日々の生活の中から、利用者からの新たな要望や変化を関係者が話し合う機会を作り、期間終了時に見直すだけでなく、臨機応変に介護計画を見直すことを期待する。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者、家族の状況に応じて、通院、美容院、お花見等参加、また馴染みの職員による外泊支援など柔軟に対応している。</p>		

グループホームこころ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームは各科の協力機関を有し、今までのかかりつけ医の受診はもちろん、かかりつけ医からの往診もある。家族や職員代行による通院介助を行い、必要な支援があり、情報は家族に伝え、経過記録を行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者や家族の意向を聞き、重度化した場合について話し合いがされている。ミーティング時に重度化した場合のケアについて、職員間で話し合いがもたれている。</p>		<p>利用者の重度化や終末期に向け、関係者全体の方針を統一する事が重要となる。今後事業所では、利用者の意向も踏まえ、マニュアル作成、終末期に向けた取組の研修を検討されているので、今後の取組を期待している。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう対応している。個人記録等の扱いにも注意を払っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の毎日の暮らしのペースを大事にし、お茶や入浴等その都度声掛けを行い、利用者の想いや希望に添えるようにしている。</p>		

グループホームこころ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは利用者の好みを反映するように配慮されている。利用者と一緒に採ってきた野菜を共に調理し、食事時は利用者と職員は同じテーブルを囲み、会話をしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入る利用者、好きな時間に入る等、本人の意向に沿うようにしている。利用者の希望や体調などに応じて、無理のないようくつろいだ時間を過ごしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ほかの利用者のズボンの裾上げや綻びを縫ってもらったり、着物の襟付け、貼り絵、草履作り、干し柿作り、梅漬け等一人ひとりの気持ちや力を日常生活の中で活かした場面作りが出来るよう職員は支援し、「ありがとう！」の言葉をかけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日や、利用者の希望により近所への散歩、畑仕事、お花見、お祭りなど外部への参加も積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自由に入出入りでき、日中は施錠されていない。利用者が外出しそうな時はさりげなく声かけしたり、一緒について行ったりしている。近所の協力も得られている。		

グループホームこころ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>地域の避難場所に車や徒歩による、年2回の避難訓練を実施し、万一のとき職員の連絡網が活用出来るようになっている。非常用食料も確保している。地域の協力体制を今後確立できるように検討している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者により、食べられないメニューの場合は、材料同一でメニュー変更し、栄養摂取および水分確保等、介護の記録に記載し把握している。メニューのカロリー計算はされていないため、定期的なチェックが課題である。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な玄関で季節の飾り、フローアからはお隣の庭の木々が眺められ、2階はコタツの畳部屋があり、家庭的な暖かみを感じさせる共有空間など利用者がゆったりと生活できるホームとなっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は利用者が希望する調度品の持込が自由である。廊下の空きスペースには、長いすが置かれ、一人で過ごしたり仲間同士自由にくつろげる空間を作っている。利用者は気軽にのびのびと過ごしている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。